

平成29年第4回倫理委員会議事要旨

1. 日 時 平成29年7月28日（金）17:00～17:55
2. 場 所 会議室1
3. 出席委員 〔内部〕 齋藤副院長（委員長）、森嶋統括診療部長、赤羽臨床検査科長、
雨宮事務部長、加藤薬剤部長、後藤病棟管理部長、
金田外来管理部長
〔外部〕 松本委員（弁護士）、大山委員（淑徳大学看護栄養学部栄養学科
長）
〔事務〕 齋藤管理課長、井坂治験主任（臨床研究部）
4. 欠席委員 〔内部〕 鈴木看護部長
5. 議 題 (1) 研究倫理審査

6. 議事概要

(1) 研究倫理審査

申請者	外科医師	山本 海介
課 題	実体臓器モデルと TAPP check List を用いた腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術術前評価の試み	
判定結果	承認	[委員のコメント] ・職員が被験者となるため、ハラスメントと受け取られるような言動に注意すること

申請者	看護師（集中治療室）	谷口 友理
課 題	身体拘束実施患者の皮膚損傷の発生要因分析	
判定結果	承認	

申請者	看護師（8階病棟）	横大路 麻未
課題	デスカンファレンスを行うことによる看護師の行動の変容	
判定結果	承認	<p>[委員のコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員が被験者となるため、ハラスメントと受け取られるような言動に注意すること

(2) 「働き方改革」と「説明と同意」について（副院長より説明）

- ・現状は、説明と同意が医師の大きな負担になっている
- ・手術の説明は、患者本人だけへの説明ではなく、家族も同席するので平日夜か土日の午前中など必ず時間外になる
- ・現在行っている説明は、患者の自己決定権を保護する説明になっているか
- ・正しい説明とはどういうものか、患者の自己決定権を支援するものを、ある程度の形にして倫理委員会から提言を出したいと考えている、また、輸血と身体抑制についても、同様のものを作りたいと考えている
- ・引き続き検討していくこととする

[委員のコメント]

- ・リスクを全て説明すると自己判断できないのではないか、ただし、説明を省略するとそんな話は聞いていないとなり難しい問題である
- ・前提として、訴訟に至る前の段階でクレームはどの程度の数があり、それに対してどのように対応しているのか
 - 医療事故が起きた場合、臨時医療安全管理委員会を開催し、まず事実確認を行い、過誤があるのか否か、予期できるものだったか否かを検討して、事故調に届けるかどうかを決定する

次回倫理委員会 8月25日（金）午後5時～